

## 体験談 5

### 『やっと巡り合えた集団の場』 Part 1

私の待望の赤ちゃんは、出産時から不安要素ばかりで病院に通いながら経過観察の日々が続きました。もちろん成長は育児書どおり進まず悶々とした日々を送っていました。早くはっきりとした診断が欲しかったので受診のたびに先生に検査をして欲しいと頼みました。そして一歳を過ぎた頃、やっと検査をして疾患が判明しました。判明するまではきっと何かあると思っていたのですが、いざ告知をされると崖から突き落とされたようで目の前は真っ暗になりました。その時主治医から言われたのは「疾患や障がいがあってもこの子は何も変わりませんからね。その事ばかりに目を奪われずに普通の子どもと同じように育てて下さいね。また、普通の子どもの集団に入れることでとても成長しますよ。」というものでした。

一度は谷底に突き落とされた私ですが、すぐにこの子のためにできることは何でもしようとして張り切るようになりました。今思えばかなり無理をしていたと思います。ですから中々心が追い付かず家族や他人からの根拠のない「大丈夫だよ」という言葉にイライラしたり、「お母さんがもっと明るく頑張らないとね」という言葉に顔では笑って心では泣いていました。ただ息子に障がいがあるのは誰のせいでもないし隠すことは絶対ないと確信していましたので、心はズタボロでも色々な場所に連れ出していました。何より成長が遅くてもめったに笑わなくても泣いてばかりでも息子が可愛くて仕方がなかったのです。

